

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホーム みゆき
所在地	松山市御幸2丁目8-16
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室温・窓の開閉・寝具・衣類・身体上の清潔・食事内容など、身内にも優る行き届いた細やかな配慮(心配り)がなされており、認知症の対応も服薬に頼らない寄り添う介護を心掛けているグループホームです。先輩スタッフの介護を見習う事で職員のレベル(介護力や認知症の理解認識)がアップするという好循環が生まれてきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、地域におけるグループホームの役割や位置づけを絶えず意識し、地域や職員と共に考え、実践に活かすよう意欲的に取り組んでいる。職員の資格取得の推進や研修の充実等により、職員間で切磋琢磨している。従って、職員は理念の具現化として「笑顔」を絶やさず、可能な限り利用者の自立支援に向けて取り組み、「マニュアルをこなす」ことに留まらないよう、気づきを大切にしている。利用者は、地域と共に生きることを日々の暮らしの中で感じながらいきいきと自由に生活している。散歩によく出かけて地域の方と顔なじみになっており、また最寄の駅で通りかかった人に尋ねてもホームの場所や道順を丁寧に説明してくれるほどに、ホーム全体が地域に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホーム みゆき

記入者(管理者)

氏名 吉田 勲

評価完了日 21 年 11 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所独自の理念を「家訓」として、サービスの核(方針)とし、日々のサービスの中で再確認し、徹底に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時以来の「家訓」をベースに職員間で話し合い、ホーム全体及びユニット毎の目標を設定している。地域との関係保持に努め、日々の暮らしの中で「笑顔」を大切にすると等、絶えず理念の実践を意識しながらケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ほぼ毎日実施されている散歩において、必ず挨拶を行い、近所の方と顔見知りになり、やさしく接している。</p> <p>(外部評価) 近所付き合いを大切にしており、地域での認知度も高く、好意を持って受け容れられている。町内会長や見守り員もホームの近所の方で、運営推進会議等を通して積極的に関わっている。「お裾分け」の様な日常のお付き合いから、防災訓練や行事等に至るまで、地域との一体化や連帯が自然のものとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 微力ですが、社員一同で取り組んでいます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームの状況や取り組み等の報告、意見交換等を行っている。 情報や意見等は、早急に検討し、サービス向上に活かすよう努めている。	
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、見守り員、利用者及び家族と、広範囲の参加があり、活発な意見交換を行っている。会に併せて地域と合同の防災訓練を実施したり、AED講習会を開くなど、地域貢献の場としても上手く活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいる。 市職員の実習を受け入れている。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席してもらって意見交換しているほか、市職員の現場実習を継続的に受け入れる等、協力体制が整っている。また、利用者の状況に応じて、利用に関する情報交換や相談等を行うなど、適宜連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で、身体拘束についての理解を深め、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関は施錠せず、随時出入り可能である。職員は、身体拘束の弊害を理解した上で、拘束しない介護について絶えず確認し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員、あやゆる虐待行為について行われるべきではないと理解できており、細心の注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要としている利用者はいないが、ミーティングで勉強をしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約の際には、利用者やその家族に必ず十分な説明を行い、理解を得た上で行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者・副管理者・ユニットリーダー・担当者と窓口を多く設け、利用者・家族の意見・要望を受け入れ、検討し、サービス・運営に反映させている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者や家族に対して常に傾聴の姿勢で対応している。職員も、利用者及び家族の声を真摯に受けとめるよう努め、カンファレンスやミーティング、連絡ノートの活用等を通して情報共有を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のユニットミーティング・リーダー会を主とし、その他随時対応している。 (外部評価) 管理者は、職員の提案や意見を大切にして傾聴に努め、職員アンケート等を通して改善点の早期発見と対応に取り組んでいる。職員は、意見を言いやすい雰囲気の中で、各ユニットリーダー等を中心に、自らの気づきの共有化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会の参加、役職の起用、特別手当及び昇給等で感じられる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内の掲示等を行い、希望に応じて勤務調整を行い、職員のレベルアップを支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて、少しずつ図れている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望、特に不安や困っている事に対して、傾聴に努め、納得して頂くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に希望・要望等、話して頂きやすい雰囲気を作り、何事においても相談して頂けるよう、また対応を遅らせないよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の求めている事を職員間で共有し、最善の方法を即座に話し合い、統一のとれたサービスを提供できるよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって相対し、尚且つ教えて頂き、本人の力を発揮できる場面作りに配慮し、共に暮らす関係を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 葉書等で近況をお知らせしたり、来所時には職員同席の時間を取って頂き、日常生活の様子を話させて頂き、共に支えていく関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 日々の会話の中に、昔話や家族・出生地等の話題を積極的に取り入れている。 葉書等を活用し、それぞれの関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) それまでの利用者の生活環境や生活歴に配慮し、美容院や寺院などの昔なじみを大切にしている。また、ホームの利用を通して新たな馴染みの関係を地域の中で構築し、いつまでも安心して笑顔で生活していくことを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングでの席の並びに配慮したり、それぞれの利用者の相性や関係を全職員が把握し、時に間に入りフォローすることにより、上手な関わり合いを持ち支え合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後、更に関わりが必要な方がいない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりや、会話で得た希望・要望・意向について、プロフィールノートを活用し、職員間で情報を共有し、必要な場合は即座に検討・実施している。 (外部評価) 本人の生活歴や昔話、日常の会話、家族からの情報、場合によっては市担当者の意見など、それぞれの状況に応じて思いや意向の把握に努めている。気づきを大切にし、新たな技能の取得を支援したり、語学など元来有する才能を改めて引き出す等、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりや会話また家族からの情報を把握し、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の状況に応じて現状の把握に努め、職員各自の気づきを申し送る事により、共有し対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティング時にカンファレンスを行い、職員間で意見交換し、介護計画の作成・見直しをしている。また現状把握に努め、利用者にとって最善な事項をその都度検討している。その上で利用者・家族に説明・承認して頂いている。 (外部評価) タイミングや遠方等の理由により、案内してもカンファレンスに直接参加できる家族は少ないため、来訪時の意見聴取や手紙等、可能な限りの意見交換を行っている。また、本人及び家族の状況によっては、地域包括支援センターや市担当者と相談する等、生活状況に応じて自立支援を目指した計画策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にケース記録に日常の様子を記入し、仕事前には必ず一読し、また口頭での申し送りを活用しながら、情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望に対応できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長さんの出席が得られて、理解を深めて頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者及び家族の希望に沿って、納得を得られたかか りつけ医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援 している。 2週間に1回の往診また異変時には即座に連絡・対応で きるような体制を築いている。	
			(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。協力医療機関から2週に1回は往診を受け ている。医療ノートを用いて、既往歴や服薬、心身状 況等の情報を共有し、適切な医療が受けられるよう、 また、急変時の迅速な対応が可能になるよう配慮して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員全員で、利用者の情報や気づきを常勤の看護職員 に伝達・相談し、日常の健康管理、医療活用の支援を している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者また家族の気持ちを優先し対応するよう努めて いる。 ミーティングにおいて、施設長より方針について話が あり、職員は理解できている。	
			(外部評価) 「ターミナルケア（看取り）マニュアル」等に基づ き、入居時から本人及び家族に説明して希望を確認 し、終末が近づいたり医療行為への依存度が高まった 段階で、改めて話し合いをもっている。看取りについ ては、管理者を中心にミーティング等の中で学習を重 ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所内の看護師により、応急手当等の訓練・研修を行いつつ、マニュアル化している。 「AED」を取り入れ、消防署等の協力を得て、救命講習を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いている。 年2回の防災訓練では、消防署・自治会の協力を得られており、協力体制は築けている。 (外部評価) 消防署及び町内会自主消防組織の協力を得ながら避難訓練を実施している。また、救命救急の地域への啓発やAEDの提供などとあわせ、地域貢献を念頭に置いた緊急時における連携体制を整えている。法人本部がホームの近所にあり、法人として備蓄など緊急時の地域支援体制についても配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重し、言葉かけには特に注意している。 居室への出入り、排泄時など、常にノック・声かけをしてから行っている。 (外部評価) 職員は、日々のケアの中で言葉づかいや動作の一つひとつに気を配っている。管理者は、プライバシーや個人情報の保護に対する意識を職員が持ち続けられるよう、ミーティング等で職員同士で確認しあう機会を持つよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者それぞれの意志力に応じて、選択・説明・言葉かけの工夫・配慮をし、自己決定までの時間を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者それぞれのペースを大切にし、個々のペースで生活できるよう支援している。その時々で過ごし方を提案し、選んで頂いたり、利用者からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に訪問美容を利用したり、外出を兼ねて美容室へ出かけたりしている。 服の選択等は、本人にまかせ、さりげなくフォローやアドバイスをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みに応じた献立作りをしている。 また、調理・配膳・片付けなど、力に応じて、職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 一汁三菜を基本に、利用者の好みを反映しつつ、保健センターの栄養士のアドバイスを受けながら、バランスのよい食事を心がけている。利用者のできることを大切にして、役割分担をしながら食事を楽しみの一つとして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本献立として、栄養バランス・水分量が一日通じて確保できるよう工夫している。 水分補給については、利用者への声かけ、職員間の申し送りにより、水分量の把握・確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状況を把握し、布パンツ・紙パンツ・パットを組み合わせ使用し、スムーズな排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) パンツ・パッド等を上手く活用し、夜間もプライバシーに配慮し、合図を用いるなどの工夫をしながら、利用者の個々の状況に応じた適切な排泄を支援し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防のため、繊維質の多い献立や、牛乳を飲んで頂いたり、ホットパック・腹部マッサージ又身体を動かして頂くなどの方法を取り、支援を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員配置の問題もあり、曜日・時間帯はほぼ決まっているが、利用者の具体的な希望を聞き、安全に楽しい入浴時間になるよう努めている。	
			(外部評価) 夏場にはシャワー浴の希望等もあるなど、可能な限り利用者の希望に応じた支援に努めている。重度化した方や入浴を嫌がる方についても職員間で協力し合い、興味を引く話題で誘導するなど、安心して楽しめる入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活ペース、又体調により思い思いに休息できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は医療ノートにより、一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、飲み切るまで見守り確認を行っている。又症状の変化の確認に努め、看護師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を知り、力に応じた役割や楽しみごとで、力を発揮できる場面を作り、充実した生活を送れるよう支援している。 掃除・洗濯物たたみ・調理・新聞折り・食器洗い等個々に対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の個々の希望に応じ、散歩や買物・ドライブに出ている。 家族の協力により、お墓参りや買物に個別に出られている。	
			(外部評価) 重度化が進む中でも、極力身近な散歩や外出ができるよう心がけ、身体機能維持と気分転換を図れるよう努めている。馴染みの場所に出かけたり、花見、温泉旅行等の行事で外出するなど、家族の協力を得ながら計画的に実施し、運営推進会議等で意見も求めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、現在事務所で管理している。買物に出た際は、力に応じてお金を所持して頂き、支払い等をお願いし支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて、電話・手紙のやり取り等行っている。 職員の提案で、近況報告の手紙を書く事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁かざりや季節の花を飾る等して、生活感・季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。気温や臭いにも配慮しており、また手摺やすべり止め等で、安全面においても居心地のよい空間を作るよう努めている。	
			(外部評価) 玄関から庭園、居間、居室と至るところに季節の花を飾り、壁飾りなどでも自然な形で季節感を演出している。手すり、ドアなどは拘束にならないように工夫しながら、プライバシーや安全にも配慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでの座る席は、基本的には決まっているが、特別な時を除き、自由に場所を移動して頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具・衣類・仏壇・装飾品等、自由に持ち込んで頂き、本人の好みの部屋となるよう工夫している。	
			(外部評価) 本人の生活歴や認知機能の状況にあわせて工夫を凝らし、飾らずシンプルな状態を好む方、仏壇を設置して毎日お供えする方など、それぞれ思い思い空間を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下など要所には手摺を設置し、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。又居室のレイアウトは、本人の希望と安全性を考慮した上で行われており、混乱を防ぐために、なるべく変更しないよう心掛けている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホーム みゆき1F
所在地	松山市御幸2丁目8-16
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室温・窓の開閉・寝具・衣類・身体上の清潔・食事内容など、身内にも優る行き届いた細やかな配慮(心配り)がなされており、認知症の対応も服薬に頼らない寄り添う介護を心掛けているグループホームです。
職員一人ひとりが介護に対する意識・意欲をもって、質の向上めざして日々研鑽に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、地域におけるグループホームの役割や位置づけを絶えず意識し、地域や職員と共に考え、実践に活かすよう意欲的に取り組んでいる。職員の資格取得の推進や研修の充実等により、職員間で切磋琢磨している。従って、職員は理念の具現化として「笑顔」を絶やさず、可能な限り利用者の自立支援に向けて取り組み、「マニュアルをこなす」ことに留まらないよう、気づきを大切にしている。利用者は、地域と共に生きることを日々の暮らしの中で感じながらいきいきと自由に生活している。散歩によく出かけて地域の方と顔なじみになっており、また最寄の駅で通りかかった人に尋ねてもホームの場所や道順を丁寧に説明してくれるほどに、ホーム全体が地域に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホーム みゆき1F

記入者(管理者)

氏名 吉田 勲

評価完了日

21 年 11 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所独自の理念を「家訓」として、サービスの核(方針)としている。スタッフルームなど要所に掲示し、ミーティング時には必ず音読し、徹底に努めている。年度毎に具体的な方針を立てている。21年度は“笑顔”</p> <p>(外部評価) 開設時以来の「家訓」をベースに職員間で話し合い、ホーム全体及びユニット毎の目標を設定している。地域との関係保持に努め、日々の暮らしの中で「笑顔」を大切に作る等、絶えず理念の実践を意識しながらケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩・買物等日常生活時に「迷惑」を掛けないようにしており、近所の方からは褒められます。又ほとんど毎日の散歩で近所の人と顔見知りになり、お会いした際には必ず挨拶を交し合う。</p> <p>(外部評価) 近所付き合いを大切にしており、地域での認知度も高く、好意を持って受け容れられている。町内会長や見守り員もホームの近所の方で、運営推進会議等を通して積極的に関わっている。「お裾分け」の様な日常のお付き合いから、防災訓練や行事等に至るまで、地域との一体化や連帯が自然のものとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 微力ですが、社員一同取り組んでいます。「AED」を設置し、社員全員講習を受け、要望があればいつでも対応できるようにしております。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 議題のメインになって、サービスの向上が図れます。 芋炊き会等行事に同席・会食していただき取り組み状 況を直接知っていただき意見交換を行う。	
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター、町内会長、民生委 員、見守り員、利用者及び家族と、広範囲の参加があり、活発な意見交換を行っている。会に併せて地域と 合同の防災訓練を実施したり、AED講習会を開くなど、地域貢献の場としても上手く活用している。	地域での活用も想定してAEDを設置するなどの姿勢 が、地域との連帯感をより一層高めている。施設内での 衛生管理は徹底され、また「まもる君の家」が話題 に出る等、防犯意識も高く、今後は感染症予防・防災 防犯など、地域の安全衛生の拠点としてさらに存在感 を高めていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいます。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席してもらって意見交換しているほ か、市職員の現場実習を継続的に受け入れる等、協力 体制が整っている。また、利用者の状況に応じて、利 用に関する情報交換や相談等を行うなど、適宜連携を 図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 緊急やむを得ない場合は、説明し同意書を家族より取 り付けている。	
			(外部評価) 玄関は施錠せず、随時出入り可能である。職員は、身 体拘束の弊害を理解した上で、拘束しない介護につい て絶えず確認し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 人としていかなる意味においても、虐待は行われるべきではないと理解できている。 職員研修・月1回のミーティング等において、介護・看護あらゆる面から虐待の防止の徹底に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員研修会やミーティングで概要を勉強し、今年7月地域包括支援センターから紹介所の方については、市の担当者共々と成年後見人の話し合いをしております。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には、利用者やその家族等には、必ず十分な説明を行い、理解を得た上で行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方へは、特に施設長が気を使い、努力されている。 御家族に対しては、意見箱を設置し、来訪時に意見・要望・苦情等を受け止めるべく対処できている。 (外部評価) 管理者は、利用者や家族に対して常に傾聴の姿勢で対応している。職員も、利用者及び家族の声を真摯に受けとめるよう努め、カンファレンスやミーティング、連絡ノートの活用等を通して情報共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員研修の場・月1回のリーダー会・月1回のミーティング等の機会で開催されている。 (外部評価) 管理者は、職員の提案や意見を大切にして傾聴に努め、職員アンケート等を通して改善点の早期発見と対応に取り組んでいる。職員は、意見を言いやすい雰囲気の中で、各ユニットリーダー等を中心に、自らの気づきの共有化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員のストレス軽減に向けた取り組みでは、親睦会の開催や勤務表を組む時に連休や希望休の調整等を折り込み、職員のリラックスタイムを提供している。向上心を持って働き続けるための取り組みでは、研修の参加・役職の起用・特別手当及び昇給等で感じられる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内の掲示等を行い、希望に応じて勤務調整を行い、又勤務体制に研修を組み込み、より積極的な受講を支援し、職員のレベルアップを図っている。介護・看護・法律的な分野からのレベルアップを研修で図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて、研修記録等を共有し、少しずつ図れている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 変化を見逃さず、何を言いたくてしたいのかを聞き、納得されるまで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用に至るまでに“安心”を感じていただき、面会に来られた時に、御家族とはよくお話しをし、“安心”を得ていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、すぐに対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって、利用者に相対し、場面によっては、教えていただいたりと本人の力を発揮できる機会作りに配慮し、支え合い、共に暮らす関係を築いている過程である。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族来訪時には、利用者の暮らしぶり・健康状態・金銭管理等の報告を行い、利用者を共に支え合う関係として認識して頂いていると思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔話しや子供さんや姉妹・兄弟の事について話をすると、特に喜ばれる。たまに電話を掛けて話していただくと喜ばれる。 行事等催す時は、手紙で連絡し参加していただけるよう継続の支援に努めている。 (外部評価) それまでの利用者の生活環境や生活歴に配慮し、美容院や寺院などの昔なじみを大切にしている。また、ホームの利用を通して新たな馴染みの関係を地域の中で構築し、いつまでも安心して笑顔で生活していくことを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を把握し、ときに職員が間に入りフォローすることで、互いに助け合って暮らしていけるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了して、更に関わりが必要な場合は、その都度対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で聴き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなど、その時々 の思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 本人の生活歴や昔話、日常の会話、家族からの情報、場合によっては市担当者の意見など、それぞれの状況に応じて思いや意向の把握に努めている。気づきを大切に、新たな技能の取得を支援したり、語学など元来有する才能を改めて引き出す等、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用者の相談の段階で、十分な聞き取りができていない。日々の関わりの中で断片を拾い集め、スタッフ間での情報交換や伝達により、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で、本人の心身状態・有する力等を職員各自の気づきを大切に、共有することで利用者の全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、ミーティング時にカンファレンスを行い、意見交換して介護計画を作成し、家族に説明の上承認を得ている。	
			(外部評価) タイミングや遠方等の理由により、案内してもカンファレンスに直接参加できる家族は少ないため、来訪時の意見聴取や手紙等、可能な限りの意見交換を行っている。また、本人及び家族の状況によっては、地域包括支援センターや市担当者と相談する等、生活状況に応じて自立支援を目指した計画策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にケース記録を記入し、仕事前には必ず一読し、不明な点は口頭で申し送り、情報を共有している。口頭での申し送り内容に比べると記録自体は、内容に乏しい観あり。利用者に対して考慮・気づき等、職員の質のレベルアップを図りたい。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望に対応できている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長さんの出席が得られて、理解を深めて頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られた かかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるよ うに支援している。異変時には電話して常に連絡・対 応できる体制を築いている。	
			(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。協力医療機関から2週に1回は往診を受け ている。医療ノートを用いて、既往歴や服薬、心身状 況等の情報を共有し、適切な医療が受けられるよう、 また、急変時の迅速な対応が可能になるよう配慮して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師により、利用者の日常の健康管理・医療 活用の支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングにおいて、施設長より方針については聞 いている。 重度化した利用者に向けた施設への申し込みを家族の 同意を得た上で提供している。	
			(外部評価) 「ターミナルケア（看取り）マニュアル」等に基づ き、入居時から本人及び家族に説明して希望を確認 し、終末が近づいたり医療行為への依存度が高まった 段階で、改めて話し合いをもっている。看取りについ ては、管理者を中心にミーティング等の中で学習を重 ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所内の看護師により応急手当等の訓練・研修を行いつつ、マニュアル化している。 「AED」を設置し、講習を受け、対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いております。 (外部評価) 消防署及び町内会自主消防組織の協力を得ながら避難訓練を実施している。また、救命救急の地域への啓発やAEDの提供などとあわせ、地域貢献を念頭に置いた緊急時における連携体制を整えている。法人本部がホームの近所にあり、法人として備蓄など緊急時の地域支援体制についても配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重した言葉かけを常に心がけている。 居室への出入り・トイレ時など常にノック・声かけをしてから行っている。 (外部評価) 職員は、日々のケアの中で言葉づかいや動作の一つひとつに気を配っている。管理者は、プライバシーや個人情報の保護に対する意識を職員が持ち続けられるよう、ミーティング等で職員同士で確認しあう機会を持つよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の意志を尊重し、本人の意志力に応じて選択・納得できるように説明・言葉かけに工夫・配慮し、答えを待つ時間を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づく、個々のケースで生活できるように支援している。 その時々で過ごし方を提案して、選んで頂いたり、本人からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的にこまめに訪問美容を利用して、思い思いのスタイルを楽しまれている。 その人らしい身だしなみ・おしゃれができるように本人に選択をまかせてさりげなくフォローしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好み・力に応じて、献立作り・準備・食事・片付けを一緒に行っている。 (外部評価) 一汁三菜を基本に、利用者の好みを反映しつつ、保健センターの栄養士のアドバイスを受けながら、バランスのよい食事を心がけている。利用者のできることを大切にして、役割分担をしながら食事を楽しみの一つとして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本献立として、栄養バランス・水分量が一日通じて確保できるよう工夫している。 必要時には食事摂取量・水分量のチェックを行い記録し、その上で体調不良で摂取量減の方には、栄養補助食品を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態に応じて、布パンツ・紙パンツ・パットを組み合わせ使用したり、ポータブルトイレを昼夜使用する方、夜間使用する方等、できる限り自力での排泄が行えるよう支援している。	
			(外部評価) パンツ・パッド等を上手く活用し、夜間もプライバシーに配慮し、合図を用いるなどの工夫をしながら、利用者の個々の状況に応じた適切な排泄を支援し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は、便秘予防と対応のために薬に頼るのではなく、繊維質の多い献立や冷乳を飲んだり、温浴法・腹部マッサージを施したり、身体を動かす等の工夫・提案・支援を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員配置の問題もあり、時間帯は決まっているが、湯温・湯量・習慣等は、できるだけ利用者の希望にそえるよう配慮している。	
			(外部評価) 夏場にはシャワー浴の希望等もあるなど、可能な限り利用者の希望に応じた支援に努めている。重度化した方や入浴を嫌がる方についても職員間で協力し合い、興味を引く話題で誘導するなど、安心して楽しめる入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 寝つきの悪い方には、側に付き添って安眠できるように配慮している。 一人ひとりの生活のペースや体調等により、思い思いに休息できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、医療ノートにより、一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、飲み切るまで見守り、確認を行っている。 又症状の変化の確認に努め、看護師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好み・力に応じて、役割や楽しみの中で、力を発揮できる場面を演出・支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常時に一人ひとりの希望に応じて、散歩や買物に出る等、戸外に出かけられるように支援している。(行くか行かないか、行き先はある程度限定されている。) 家族の協力を得て、外出(外食・買物・帰宅)される機会もある。 (外部評価) 重度化が進む中でも、極力身近な散歩や外出ができるよう心がけ、身体機能維持と気分転換を図れるよう努めている。馴染みの場所に出かけたり、花見、温泉旅行等の行事で外出するなど、家族の協力を得ながら計画的に実施し、運営推進会議等で意見も求めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、現在事務所で管理している。 自動販売機での飲み物の購入を楽しんでいただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者よりの希望に応じて電話をかけたり、利用者に贈り物が届いた時には必ず電話をかけ、本人よりお礼を言う支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の方よりいただいた草花を飾ったり、季節感のある品（時には家族の方よりいただいた果物）を飾ったりして生活感や季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関から庭園、居間、居室と至るところに季節の花を飾り、壁飾りなどでも自然な形で季節感を演出している。手すり、ドアなどは拘束にならないように工夫しながら、プライバシーや安全にも配慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下には、椅子やソファを配置して、思い思いの場所でくつろげるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具・衣類・小物・お仏壇などを自由に持ち込んで頂いて本人が居心地よい空間作りができています。	
			(外部評価) 本人の生活歴や認知機能の状況にあわせて工夫を凝らし、飾らずシンプルな状態を好む方、仏壇を設置して毎日お供えする方など、それぞれ思い思い空間を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下など要所には、手摺を設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。段差がないので歩行器や車椅子の自走がスムーズである。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホーム みゆき2F
所在地	松山市御幸2丁目8-16
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室温・窓の開閉・寝具・衣類・身体上の清潔・食事内容など、身内にも優る行き届いた細やかな配慮(心配り)がなされており、認知症の対応も服薬に頼らない寄り添う介護を心掛けているグループホームです。
先輩スタッフの介護を見習う事で、職員のレベル(介護力や認知症の理解・認識)がアップするという好循環が生まれてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、地域におけるグループホームの役割や位置づけを絶えず意識し、地域や職員と共に考え、実践に活かすよう意欲的に取り組んでいる。職員の資格取得の推進や研修の充実等により、職員間で切磋琢磨している。従って、職員は理念の具現化として「笑顔」を絶やさず、可能な限り利用者の自立支援に向けて取り組み、「マニュアルをこなす」ことに留まらないよう、気づきを大切にしている。利用者は、地域と共に生きることを日々の暮らしの中で感じながらいきいきと自由に生活している。散歩によく出かけて地域の方と顔なじみになっており、また最寄の駅で通りかかった人に尋ねてもホームの場所や道順を丁寧に説明してくれるほどに、ホーム全体が地域に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホーム みゆき2F

記入者(管理者)

氏名 吉田 勲

評価完了日

21 年 11 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) スタッフルームなど要所に掲示し、ミーティング時には必ず音読し、徹底に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時以来の「家訓」をベースに職員間で話し合い、ホーム全体及びユニット毎の目標を設定している。地域との関係保持に努め、日々の暮らしの中で「笑顔」を大切に作る等、絶えず理念の実践を意識しながらケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天候の良い日は、毎日散歩をし、近所の方々顔見知りになり、親しくなっている。 また行事等にも積極的に参加を呼びかけている。</p> <p>(外部評価) 近所付き合いを大切にしており、地域での認知度も高く、好意を持って受け容れられている。町内会長や見守り員もホームの近所の方で、運営推進会議等を通して積極的に関わっている。「お裾分け」の様な日常のお付き合いから、防災訓練や行事等に至るまで、地域との一体化や連帯が自然のものとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 微力ですが、社員一同で取り組んでいます。 出勤時・買物の時・スーパー内・日々の散歩等で、積極的に話しかけたり、オレンジリングを腕にはめて“いつでも支援できる”姿勢でいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 議題のメインになって、サービスの向上が図れます。	地域での活用も想定してAEDを設置するなどの姿勢が、地域との連帯感をより一層高めている。施設内での衛生管理は徹底され、また「まもる君の家」が話題に出る等、防犯意識も高く、今後は感染症予防・防災防犯など、地域の安全衛生の拠点としてさらに存在感を高めていくことを期待したい。
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、見守り員、利用者及び家族と、広範囲の参加があり、活発な意見交換を行っている。会に併せて地域と合同の防災訓練を実施したり、AED講習会を開くなど、地域貢献の場としても上手く活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいます。	運営推進会議に出席してもらって意見交換しているほか、市職員の現場実習を継続的に受け入れる等、協力体制が整っている。また、利用者の状況に応じて、利用に関する情報交換や相談等を行うなど、適宜連携を図っている。
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。緊急やむを得ない場合は、説明し同意書を家族より取り付けている。	玄関は施錠せず、随時出入り可能である。職員は、身体拘束の弊害を理解した上で、拘束しない介護について絶えず確認し合っている。
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行われるべきではないと理解できている。 研修会等で学ぶ機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要としている利用者はいないが、研修会等で勉強はしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には、利用者やその家族等には、必ず十分な説明を行い、理解を得た上でやっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 問題が発生しないよう、それとなく対処できている。 (外部評価) 管理者は、利用者や家族に対して常に傾聴の姿勢で対応している。職員も、利用者及び家族の声を真摯に受けとめるよう努め、カンファレンスやミーティング、連絡ノートの活用等を通して情報共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング等の機会で開催されている。 (外部評価) 管理者は、職員の提案や意見を大切にして傾聴に努め、職員アンケート等を通して改善点の早期発見と対応に取り組んでいる。職員は、意見を言いやすい雰囲気の中で、各ユニットリーダー等を中心に、自らの気づきの共有化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会の参加・役職の起用・特別手当及び昇給で感じられる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内の掲示等を行い、職員のレベルアップを支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて少しずつ図れている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 変化があれば分かるので、何が言いたくてしたいのかを聞き、納得されるまで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会に来られた際に、ご家族とはよく話しができています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、すぐに対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって利用者に相対し、場面によっては、教えて頂いたり、本人の力が発揮できる機会作りに配慮し、支え合い、共に暮らす関係を築いている過程である。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 各々家族来所時には、近況を話し合い、利用者を共に支え合う関係として認識して頂けると思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔話しや子供さんや姉妹・兄弟の事について話しをすると特に喜ばれる。 (外部評価) それまでの利用者の生活環境や生活歴に配慮し、美容院や寺院などの昔なじみを大切にしている。また、ホームの利用を通して新たな馴染みの関係を地域の中で構築し、いつまでも安心して笑顔で生活していくことを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を把握し、ときに職員が間に入りフォローすることで、互いに助け合って暮らしていけるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了して、更に関わりが必要な方がいない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で聴き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなど、その時々 の思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 本人の生活歴や昔話、日常の会話、家族からの情報、場合によっては市担当者の意見など、それぞれの状況に応じて思いや意向の把握に努めている。気づきを大切に、新たな技能の取得を支援したり、語学など元来有する才能を改めて引き出す等、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用者の相談の段階で、十分な聞き取りができていない。日々の関わりの中で断片を拾い集め、スタッフ間での情報交換や伝達に依り、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で、本人の心身状態・有する力等を、職員各自の気づきを大切にし共有することで、利用者の全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ミーティング時にカンファレンスを行い、意見交換して介護計画を作成し、家族に説明の上承認して頂いている。	
			(外部評価) タイミングや遠方等の理由により、案内してもカンファレンスに直接参加できる家族は少ないため、来訪時の意見聴取や手紙等、可能な限りの意見交換を行っている。また、本人及び家族の状況によっては、地域包括支援センターや市担当者と相談する等、生活状況に応じて自立支援を目指した計画策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にケース記録を記入し、仕事前には必ず一読し、不明な点等は、口頭で申し送り情報を共有している。しかし口頭での申し送り内容に比べると、記録自体は内容に乏しい観あり。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望に対応できている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長さんの出席が得られて、理解を深めて頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られた かかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるよ うに支援している。異変時にて、電話して常に連絡対 応できる体制を築いている。	
			(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。協力医療機関から2週に1回は往診を受け ている。医療ノートを用いて、既往歴や服薬、心身状 況等の情報を共有し、適切な医療が受けられるよう、 また、急変時の迅速な対応が可能になるよう配慮して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師により、利用者の日常の健康管理・医療 活用の支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。 スタッフ及び看護師は、かかりつけ医と月2回の往診時 には、利用者についての細やかなやり取りを行ってい ますし、受診にも出向いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングにおいて、施設長より方針について聞いて いる。	
			(外部評価) 「ターミナルケア（看取り）マニュアル」等に基づ き、入居時から本人及び家族に説明して希望を確認 し、終末が近づいたり医療行為への依存度が高まった 段階で、改めて話し合いをもっている。看取りについ ては、管理者を中心にミーティング等の中で学習を重 ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所内の看護師により、応急手当等の研修を行いつつマニュアル化している。 「AED」も設置し、急変時に対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いております。 年2回は、避難訓練・消火訓練の実施等もしております。 (外部評価) 消防署及び町内会自主消防組織の協力を得ながら避難訓練を実施している。また、救命救急の地域への啓発やAEDの提供などとあわせ、地域貢献を念頭に置いた緊急時における連携体制を整えている。法人本部がホームの近所にあり、法人として備蓄など緊急時の地域支援体制についても配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重した言葉かけを常に心掛けている。 居室への出入り・トイレ時など常にノック・声かけをしてから行っている。 (外部評価) 職員は、日々のケアの中で言葉づかいや動作の一つひとつに気を配っている。管理者は、プライバシーや個人情報保護に対する意識を職員が持ち続けられるよう、ミーティング等で職員同士で確認しあう機会を持つよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の意志を尊重し、本人の意志力に応じて選択・納得できるように説明・言葉かけに工夫・配慮し、答えを待つ時間を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づく、個々のペースで生活できるように支援している。 その時々で過ごし方を提案して選んで頂いたり、本人からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的にくまめに訪問美容を利用し、思い思いのスタイルを楽しまれている。 その人らしい身だしなみ・おしゃれができるように、本人に選択をまかせてさりげなくフォローしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好み・力に応じて、献立作り・準備・食事・片付けを一緒に行っている。	
			(外部評価) 一汁三菜を基本に、利用者の好みを反映しつつ、保健センターの栄養士のアドバイスを受けながら、バランスのよい食事を心がけている。利用者のできることを大切にして、役割分担をしながら食事を楽しみの一つとして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本として、栄養バランス・水分量が一日通じて確保できるよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態に応じて、紙パンツ・布パンツ・パットなどを組み合わせて使用し、スムーズな排泄ができるように支援している。	
			(外部評価) パンツ・パッド等を上手く活用し、夜間もプライバシーに配慮し、合図を用いるなどの工夫をしながら、利用者の個々の状況に応じた適切な排泄を支援し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防のために繊維質の多い食物を食べて頂いたり、マッサージや適度な運動を取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日・時間帯は決まっているが、湯量・湯温・習慣は、できるだけ利用者の希望にそえるように配慮している。	
			(外部評価) 夏場にはシャワー浴の希望等もあるなど、可能な限り利用者の希望に応じた支援に努めている。重度化した方や入浴を嫌がる方についても職員間で協力し合い、興味を引く話題で誘導するなど、安心して楽しめる入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 寝つきの悪い方には、側に付き添って安眠できるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は医療ノートにより、一人ひとりが服薬している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、飲み切るまで見守り、確認を行っている。症状の変化があれば看護師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好み・力に応じて、役割や楽しみの中で力を発揮できる場面を演出・支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買物に出る等、戸外に出かけられるよう支援している。	
			(外部評価) 重度化が進む中でも、極力身近な散歩や外出ができるよう心がけ、身体機能維持と気分転換を図れるよう努めている。馴染みの場所に出かけたり、花見、温泉旅行等の行事で外出するなど、家族の協力を得ながら計画的に実施し、運営推進会議等で意見も求めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、現在事務所で管理している。駄菓子程度の買物の支払いは、本人に任せ、見守りしております。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者よりの希望に応じて、電話をかける等の支援は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 草花を飾ったり、季節感のある品を飾ったりして、生活感や季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 玄関から庭園、居間、居室と至るところに季節の花を飾り、壁飾りなどでも自然な形で季節感を演出している。手すり、ドアなどは拘束にならないように工夫しながら、プライバシーや安全にも配慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングや廊下に畳や椅子・ソファを配置して、思い思いの場所でくつろげる工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの家具・衣類・お仏壇などを自由に持ち込んで頂いて、本人が居心地よい空間作りができています。</p> <p>(外部評価) 本人の生活歴や認知機能の状況にあわせて工夫を凝らし、飾らずシンプルな状態を好む方、仏壇を設置して毎日お供えする方など、それぞれ思い思い空間を演出している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ・廊下など要所には、手摺を設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。段差がないので歩行器や車椅子の自走がスムーズである。</p>	